



No.42

2021.08.10

シニアの学び舎

レイカディア大学だより 草津校

シニアが新しい教養と技術を身につけ、地域の担い手として登場できるよう支援しています



撮影場所：第1なぎさ公園(守山)
写真提供：サポートの会 広報情報部会員

夏本番

太陽に向かってまっすぐに伸びる向日葵は、見る人に元氣や希望といった明るさを与えてくれる夏を代表する花です。
暑い日が続きますが、私たちも、この向日葵のように明るく元氣に過ごしましょう。

レイカディア大学事務局の皆さんを紹介

今年度よりレイカディア振興グループに配属となりました。価値観が多様化している現代のシニアの方々のニーズに沿った楽しく学べるレイ大となるよう頑張っていますので、皆様のお力添えをよろしくお願いします。
担当：レイカディア振興グループの総括、卒業生組織との調整

高橋 宏和（たかはし ひろかず）

自分自身がレイ大に入学するときのことを想像しながら、どうすれば学生生活が充実したものになるかな、と日々考えています。何年後かにはみなさんの後輩となる予定ですのでよろしくお願いします！（学科は未定）
担当：草津校・米原校の総務・学校行事

川口 智子（かわぐち ともしこ）

レイカディア大学卒業生の皆様の豊富な知見、人生経験と何事にも前向きな行動力により、人の輪、社会の輪をさらに大きくされている姿に敬服しています。今後の皆様のますます充実した日々のためにも、コロナ禍の早期終息を願います。
担当：ねんりんピック、スポーツ等交流大会

増田 福永（ますだ ふくなが）

どうぞ
よろしく
お願いします



左側より
増田さん、川口さん、高橋さん、坂本さん、森さん、田内さん

大学講座には直接関係のないお仕事を担当していますが、わかる範囲で・・・！！お気軽にお声がけください。よろしくお願いします。

担当：シルバー作品展、びわこシニアネット、レイカディア通信。
2020年9月より、月に12日、事務局に座っています（笑）。

田内 朗子（たうち あきこ）

1人でも多くの県民の方々に、レイカディア大学の魅力を伝えていきたいと思います。一生懸命頑張りますので、よろしくお願いします。

担当：大学の広報・学生募集・再編集検討、指定管理・補助金業務

坂本 悠輔（さかもと ゆうすけ）

4月1日からレイカディア大学草津校でお世話になっております。少しずつ慣れてきましたが、戸惑う事ばかりです。元気澆刺としたレイ大生の皆様から沢山学ばせていただいております。どうぞよろしくお願いします。

担当：草津校の選択講座、学校行事

森 美穂（もり みほ）

琵琶湖をとりまく 自然と環境について学ぶ

私たちびわこ環境学科生は、琵琶湖をとりまく自然と環境について大学の先生方による講義と各地の施設等への校外学習を通して、学びを進めています。

近年、水辺環境の復元に水草、ヨシが活用され、かつては駆除の対象であった外来魚も有効利用が考えられています。琵琶湖と人間生活のつながりを考慮してこそ豊かな湖を次世代に残せることを学びました。

コロナ禍により「大学祭」を縮小して「学習成果展示会」を開催しました。「びわ湖と生きる」班では、校外学習で訪れた地域や施設で学んだことを写真や資料で紹介しました。「びわ湖に流入する河川の水質」班では、32 ヶ所余りの水質検査を行い、その結果を展示しました。「びわ湖の生い立ち」班では、琵琶湖の誕生から現在までを紹介し、見学者にはクイズ形式で理解を深めてもらい好評でした。

課題学習では、「琵琶湖の健康診断」として「琵琶湖の水」「びわ漁たんけん隊」の2 グループに分かれて、楽しく協力し合い、調査・研究を進めています。

42 期びわこ環境学科 学科長 高木 清人



西の湖のヨシ群落の見学



バイオディーゼル燃料の製造実習



学習成果展示会準備



学習成果展示パネル前で

42 期園芸学科 A

学科紹介

園芸という広い分野 まだまだ未知の世界

入学からはや1年半がたち、やっと2年生になりました。当初24名であった仲間が、新型コロナや家庭の事情で19名となりました。みんな元気に頑張っています。

講義は「樹木を理解すること、果樹の栽培や剪定、里山整備、家庭菜園の作り方、花の寄せ鉢、花壇づくり、樹木・庭木の剪定、花や野菜の育て方や管理」など多岐にわたります。

テーマごとに専門の先生が説明され実践しました。講義終了後は必ず質問の時間があり、習ったことやそれに関連したことも親切にご指導いただきました。

園芸という広い分野はまだまだ未知の世界です。長寿社会福祉センター内にある花壇やプランター、びわこ学園での花や野菜作りを実践し学んでいます。

残る在学期間も1年を切り、いまは卒業論文とも言える課題学習に4グループが取り組んでいます。各グループでテーマを決めて、試行錯誤を重ね、役割を決め、成果を期待し、力を合わせて取り組んでいます。

努力が結果として現れなくても、その時々を「共に学び、共に遊び、共に生きる」を大切にしたいと思います。

42 期園芸学科 A 学科長 福元 隆広



秋の菜園づくり-畑の準備



守山フルーツランドへ校外学習



生垣づくり
-男結びの教習



びわこ学園で
花壇の植え付け



びわこ学園で
花壇整備

グラウンドゴルフクラブ

健康増進に

グラウンドゴルフを！！

グラウンドゴルフは専用のクラブ、ボール、ホールポスト、スタートマットを使用して、ゴルフのようにボールをクラブで打ち、ホールポストにホールインするまでの打数を競うものです。

シニア世代のスポーツにピッタリのグラウンドゴルフは、仲間作り、地域デビューにもってこいのスポーツです。チョットやってみようかなという人、すご腕の我こそという人も待っています。

本クラブは、心身ともにリフレッシュし、ルールを守り、よりよいマナーを身につけて、部員一同が楽しみ、親睦を深め合い、技能の向上と健康の増進を図ることを目的としています。

現在、必修講座と選択講座後の3時半より「瀬田南大萱霊園内グラウンドゴルフ場」で練習しています。そして月一回のコンペは「矢橋帰帆島公園GGコース」で行っています。

今橋 久之 部長(42期園芸学科A)



コロナ禍のため、卒業生の41期生(15名)もクラブ員として存続し、42期生(8名)と一緒にクラブ活動を行っています。通常は「矢橋帰帆島公園GGコース」で月一回のコンペを実施していますが、コロナ禍で矢橋帰帆島の施設が閉鎖されていたため、6月18日のコンペは「瀬田南大萱霊園内グラウンドゴルフ場」で開催されました。

当日は、梅雨の晴れ間で参加者が13名、みなさん、はつらつとプレイを楽しんでいました。ホールインワンも続出です。やったー！バンザイ！で和みます。

今橋部長のモットーとする「部員一同が楽しみ、親睦を深め合い、技能の向上と健康増進を図る」1日となったようです。みなさんの笑顔が素敵でした。

取材／前田



シニア時代に
ぴったり！

クラブ紹介

卓球クラブ

フットワークも心も軽快に…

コロナ禍で休止になっていたクラブ活動が4月より再開となり、卓球部の練習を取材しました。現在の卓球部は42期生のみで部員数は9名(男性8名、女性1名)です。卓球台2台で月2回程度必修講座の後、体育室で練習をされています。準備体操の後、密を避ける為、交代制で1対1の対戦での練習です。

横田部長は「卓球を通じて学科を超えた仲間が出来、一緒にいい汗をかくのが良い。そして何よりも仲間との心の交流が出来るのが嬉しい」という事を強調されていました。

練習風景を見学させて頂いて、本当に和気あいあいと皆さんが卓球を楽しまれているのが伝わって来ました。見ているほうも、ほのぼのと楽しい気分になった取材でした。

取材／稲田・野村



部員の方々の声・・・

- 座ったままの必修講座の後、卓球で体を動かせる事が気持ち良くストレス解消になります。
- ラリーで相手と会話出来るのが楽しいです。
- 卓球は動体視力も向上するし、目の健康の為に良く、運動神経にも良いと思います。
- 卓球で体を動かし運動不足を解消！それが一番です！だから好きなスポーツです。
- 歳をとっても出来るスポーツそれが卓球、身も心も集中するとストレスを発散出来ます。
- 野球をやっていたが、野球と違って気軽に出来る卓球は会話をしながらラリーが出来るので楽しいです。
- ハードなスポーツは無理ですが、気軽に出来る卓球は体を動かすにはちょうど良いです。





ビンボーリング



ビンボーリング



マンカラ

久しぶりに仲間と ニューススポーツを楽しむ

今年度のニューススポーツ大会は、昨年の新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け学生募集が中止になり、2年生の42期生のみで十分な感染予防対策を行っての開催となりました。

体育委員長の中山敦生さん(42期健康づくり学科)は、コロナ禍で開催出来るかと不安もありましたが、感染予防対策やプログラムの工夫を重ね、学科長会議で開催したい胸中を伝えたところ、誰よりも早く、小林総学科長の『やりましょう』の嬉しいお言葉をいただきました。開催にあたり、各学科長、体育委員、参加の全学生の皆様にご協力いただき感謝申し上げます、と開催の喜びを話されました。

競技は密にならないよう工夫され、クロリティ、ビンボーリング、カロリング(初登場)、マンカラの4種目と体力測定がありました。

学生らは、大きな声は慎みながら、それでも和気あいあいと各競技を楽しんでいました。

早く平常の授業風景に戻ることを願いつつ、取材を終えました。

取材／野村・藤岡



カロリング



クロリティ



体力測定(長座体前屈)

OBは今

寄稿

大津市大石龍門町 ふれあいサロン『オアシス』を立ち上げて

平成29年2月、賛同者10名が相集い、高齢者が憩いの場所となるようなネーミングのサロン「オアシス」を立ち上げ、事務方として従事し5年目に入りました。

サロンは月1回(年12回)、町内の高齢者の健康寿命の増進・延伸を図ることを目的に、健康面のサポートすることを大きな目標としてスタートしました。

当初は、平均30名を超える参加者がありましたが、現在では平均25名程度で、現状を維持することの難しさを痛感しています。



毎月一回の健康体操で体力向上！ 健康寿命も延びます

5年の実績を経て

今後の後継者育成が

課題です



西 勝太郎さん

(34期健康レクリエーション学科)

また、立ち上げに際し、学区内の特養施設に健康体操講師の派遣要請を行い、地元企業の叶匠壽庵に役員が出向き、サロン活動の主旨等を説明・協力を求めた結果、物心両面からの援助を取り付けることも出来、何よりの励みとなっています。

また、4年間の健康体操を積み重ねた成果として、参加者の体力は各段に進歩が認められ、健康寿命の増進に大きく寄与しているものと確信しています。

ただ、年間計画の策定に当たり、プラスアルファの催事のバランスを考える必要もあり、頭を痛めています。参加者から労いの言葉をかけていただくことで救われていることも事実です。

今、最も大きな悩みとして、熱意を持った後継者(賛同者)の育成について、目下悪戦苦闘しています。この問題は一朝一夕には解決できない喫緊の課題と考え模索中です。

西 勝太郎

